

【都市計画マスタープラン（現行）の構成】

都市計画マスタープランの前提（第1章）
本マスタープランの役割や位置付け、対象範囲や期間、見直しの考え方などについて示します。

都市の動向（第2章）
京都市の特性や、京都市の現状と動向などを示します。

全体構想 ～都市の将来像～（第3章）

都市計画の理念
京都市基本構想に即した、都市計画の理念を示します。
<実現に向けて重視する点>
「都市の持続」「都市の独自性」「都市の経営」

都市計画に関する基本的な考え方
全市的な都市づくりを貫く大きな考え方を示します。

都市の将来像
～エココンパクトな都市構造～

- ③相互につながる個性的な地域の形成
- ②都市活力の向上と低炭素社会を実現する都市構造の形成
- ①京都市の特性を踏まえた土地利用の展開

目標とする都市の姿
目標とする都市の姿を5つの面から示します。
（「環境」「経済」「生活」「文化」「安心・安全」）

戦略的な視点
目標とする都市の姿を、戦略的に目指します。

全体構想 ～都市計画の方針～（第4章）

- ・目標とする都市の姿の実現に向け、京都市全体としての都市計画の方針を、都市計画の分野毎に定めます。
- 土地利用 ○歩くまち ○景観
- 防災 ○道路 ○公園・緑地
- 市街地整備 ○水・河川
- その他市民の暮らしを支える施設
- ・具体的な手法については、都市計画の方針に即した上で、その時々に応じた多様な手法を選択できるものとします。

方面別指針【新設】

地域まちづくり構想（第5章）

第1回～第3回

反映

- 次期「基本計画」
- 社会経済動向
- 持続可能な都市構築プラン

時代の潮流
（SDGs, レジリエンス, 真のワーク・ライフ・バランス, Society5.0）

「ウィズコロナ・ポストコロナ社会」への展望

**京都ならではの可能性の追求
都市格の向上・魅力の発信**

拡充

京都の都市特性を踏まえた「持続可能な都市構造」の実現

保全
自然と歴史的な景観を保全するとともに、良好な居住環境の保全・向上を図るゾーン

再生
商業・業務機能が集積し、歴史豊かな市街地における調和を基調とする再生を図るゾーン

創造
21世紀の新たな活力を担う創造のまちづくりを進めるゾーン

歴史文化都市・京都が未来に受け継ぐ魅力の源泉

- 豊かな自然（市域の8割を占める山林、農地、河川等）
- 地域に息づく文化（景観、京町家、伝統産業、文化財等）
- ヒューマンスケールなまち（生活利便性、地域の絆等）
- ※京都らしさを守り磨く。時代に対応していく。

京都ならではの魅力と都市活力の循環

- ・地理的制約への対応と市域全体の持続性
- ・周辺部等の多様な地域拠点の活性化
- ・人口減少の歯止めと働く場の確保
- ・安心安全、快適で健康な暮らしの実現
- ・多文化・環境共生、国際文化観光都市の質の向上等
- *ウィズコロナ・ポストコロナ社会も展望

新たな価値を創造する都市であるための伸びしろ

- 交通インフラの整備（地下鉄線、高速道路、新駅開業等）
- 都市整備・再生（らくなん進部、区画整理、NT・住宅団地等）
- 近隣都市とのつながり（地理的な連続性、交通アクセス）
- ※次世代のための都市環境と都市機能の受皿をつくる。

※人々の豊かな暮らしとともに、持続可能な都市の財政や都市経営の観点も考慮

拡充

特に拡充する視点

- 視点① **新たな時代の「職住共存・職住近接」**
～エリア間のつながり～
- 視点② **広域的な視点と「都市圏」**
～都市間のつながり～
- 視点③ **これからの「暮らしと営み」に対応したまちづくり**
～地域内のつながり～

拡充

持続可能な都市構築プランの5つのエリア

- 広域拠点エリア
- 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- 学術文化・交流・創造ゾーン

指針化

より即地的・総合的に策定

《北部・都心部・西部・南部・東部》

- 各方面の都市全体における位置付け
- 方面ごとの将来像
- ※近隣都市との関係性も考慮

第4回

【総合的・即地的な議論】

都市マス見直し

都市計画の推進

- 将来ビジョンの共有（市民、事業者、行政）
- 都市計画手法等の活用
- ・都市計画の決定・変更など各種手法の活用
- ・「立地適正化計画」制度の活用
- 関連施策との連携を強化
- ・連携体制の構築
- *PDCA, モニタリング

（資料3）

（資料4）

【方面別指針の議論】

（資料5）

第5回

【プラン全体の議論】

（見直し素案の検討）

都市計画審議会